



# 令和新時代の幼稚園へ

本年5月に、新天皇が即位され「令和」という新しい時代が始まりました。新時代を迎えて、心も新たに幼児教育推進に邁進してまいります。

幼稚園の現場では、今日も子どもたちの元気な声が満ち溢れていることでしょう。いつの世でも、子どもたちは希望の象徴であり、未来への懸け橋です。未来を託す子どもたちの成長に関わる事の出来る喜びと責任を自覚しながら、日々前進して参りましょう。

## 幼児教育の無償化

5月に子ども・子育て支援法の改正案が成立し、「幼児教育・保育の無償化」が正式に実現することになりました。新制度移行園では基本負担額である「教育・保育給付」が無償となり、私学助成園では新たに「施設等利用給付」として、月額25,700円まで無償となります。既に県内市町村からの説明を受け、保護者への文書配布や説明会が進んでいることと存じます。行政担当者と緊密に連携をとり、混乱なく実施されるようお願い致します。

今まで就園奨励費を満額受給されていたり、基本負担額が無償であった家庭には、補足給付として、副食費が減免されることとなります。各園は給食費の設定において、主食・副食と費用を案分する必要があります。また、預かり保育においても、新2号認定こどもは利用料が月額11,300円まで無償となり、利用日数に応じて給付が行われることとなります。文部科学省担当官の説明を何度聞いても、細かな制度の全てを理解することが難しく、今後とも市町村担当者への確認が必要となると思われま

## 私学助成の充実・公定価格の引き上げを

私立幼稚園の財政的基盤を充実させるには、今まで以上に施設としての収入を確保していかなければなりません。幼児教育無償化は保護者の経済的負担の軽減であり、園の収入の増加とならないことはご存じの通りです。昨年度の出生数は92万人台となり、

少子化の波は止まりません。

幼児数の減少と保育施設の増加で、幼稚園の園児数は減り続けています。運営を支えるには、適正な納付金の設定と経常費補助

金の増額が必須であります。今年度の神奈川県経常費の伸び率は全国3位になりましたが、単価は依然として下位にとどまっております。行政当局の理解や議会の後押しを受けて、これからの経常費増額の良い流れを維持して参りたいと思っております。

新制度移行園にとっては、公定価格の動向が気になります。7月に実施された内閣府の経営実態調査の結果次第では、引き下げ圧力が増してくると言われております。将来の園舎建て替えや教育環境の充実に向けては、それなりの内部留保や引当金が必要です。基本となる公定価格は維持こそされ、引き下げは受け入れられないと考えております。全日私幼連と連動して要望を続けていきたいと思っております。

## 県連の財政基盤の確立を

園児数の減少は、県連の財政を圧迫しており、ここ数年支出超過の状態が続いております。県連では、役員や各部部員の日当を減額し、事業の見直しも進めています。しかしながら、県連の役割は増大しており、支出を抑えることにも限界があります。今年度は賛助会員を積極的に勧誘して、収入増加に寄与したいと考えております。幼児教育に理解があり、賛助会員として加入頂ける企業・団体・個人を是非ご紹介頂きたいと思っております。

同時に、園児数に依存する会費の在り方を議論したいと考えております。各協会の会費の在り方も参考にしながら、より良い方向を目指したいと思っております。議論の結果次第では、各園の負担をお願いせざるを得ませんが、ご理解頂きたいと思っております。

二学期も忙しい日々が続くと存じますが、引き続き加盟各園が幼児教育に情熱を傾け、健やかな子どもたちの成長に寄与されますことをご祈念申し上げます。



公益社団法人  
神奈川県私立幼稚園連合会  
会長 小澤俊通

### INDEX

#### 1 令和新時代の幼稚園へ

●公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤俊通

#### 2・3 いよいよ幼児教育・保育の無償化がスタート

神奈川県福祉子どもみらい局より 就任にあたって  
令和元年度事業予定表

#### 4~7 研修事業部・研究部活動報告

#### 8・9 研修会報告/就職フェア・相談会

令和2年度予算要望について

#### 10・11 県父母の会連合会委員総会開催報告

キャリアアップ研修/ケンタガーデン  
法律相談事業/教育相談事業

#### 12 Pride of KANAGAWA/新規加盟園紹介 令和元年度神奈川県連合会加盟園数・園児数/事務局からのお知らせ

# いよいよ幼児教育・保育の無償化がスタート

副会長 安西 透

いよいよ10月より幼児教育・保育の無償化がスタートします。夏休み前に各市町村より説明会が開かれ、行政と各園において、また保護者との間で確認や認定の書類の続きが始まりましたが、説明を聞いてもまだまだ分からないことが多く、保護者からの質問にうまく対応できないとの声が多く聞かれます。無償化は市町村が窓口となるので、今まであまり関わりがなかった行政担当者や取り回しをしていかなければならず、行政当局との温度差、対応にも差があり、早く対応したい園の関係者からは不満の声があるので、県当局からの県下全域の広域調整をお願いしました。この夏休みの間、各園の事務担当職員の方にとっては忙しい夏休みとなりましたのではないのでしょうか。



今回の無償化については幼児教育に携わる幼稚園・こども園にとっては念願がかなった形ですが、無償化の範囲が幼児教育の部分だけでなく保育の部分、幼稚園では預かり保育までが対象となり、そのことで預かり保育を希望する2号相当の子どもが増えるのではないかと不安になっている園長・設置者が多いようです。今でも教職員の採用が難しく、預かり保育の場合、担当教員に対して定員がいけばよいのか苦慮している現状があります。常勤にしてもパートにしても養成校や派遣会社に依頼してもなかなか見つからないという声を沢山聞きます。たとえ派遣会社で紹介され契約できたとしても3ヶ月で退職してしまうことが多く、二度と派遣会社は使われないと聞くことが多いのです。

新制度移行園と私学助成園にかかわらず、課題となっているのが給食費の取り扱いのことです。給食費を保育料の中に入れて徴収していた園は、給食費を別に保護者から金額を設定して徴収することになります。給食費単独で徴収していた園や1ヶ月一律で徴収していた園と食べた分だけ徴収していた園、1号認定と2号認定金額を分けて徴収していた園と同額にしていた園、更に給食を自園調理していた園と外部の業者に委託して弁当を搬入していた園など、給食は園によっていろいろな形で取り扱っており、また無償化になった場合、副食費を保護者負担にして徴収しなければならぬということと、第3子と年取360万円未満の世帯の副食費を減免する対応をしなければならないことがあり、これらの対応に苦慮している園が多いと聞いています。各園においては、市町村や県私学振興課と無償化までに保育料と給食費の取り扱いについて相談していく必要があります。

無償化では新制度移行園と私学助成園との事務負担量の違い、私学助成の園にとっては収入が増えるわけではないのに事務負担だけが増えるという形になっています。毎月提出する書類があり、県連合会としても神奈川県に対して事務負担にかかわる人件費や機器の導入に対しての助成を要望しました。市町村からの助成も各協会を中心働きかけていただきたいと思いますが、県立局も財政難なところですが、これからも強く要望していきたいと思えます。全日私幼連には各市町村での書類を統一してもらえるように国に働き掛けています。

者の質の向上が必要不可欠です。県連合会としては研修会の充実を図って、幼稚園・こども園にとって意味のある研修会を、キャリアアップ研修も含めて充実を目指し企画運営しています。更に免許状更新講習も協会や養成校の協力を得て無免許にならないように実施していきたいと考えています。後一か月余りで無償化がスタートします。各園においては認定の手続きや保育料の設定、園則の変更等について各機関に相談の上、準備を進めていただきたいと思えます。

無償化では新制度移行園と私学助成園との事務負担量の違い、私学助成の園にとっては収入が増えるわけではないのに事務負担だけが増えるという形になっています。毎月提出する書類があり、県連合会としても神奈川県に対して事務負担にかかわる人件費や機器の導入に対しての助成を要望しました。市町村からの助成も各協会を中心働きかけていただきたいと思いますが、県立局も財政難なところですが、これからも強く要望していきたいと思えます。全日私幼連には各市町村での書類を統一してもらえるように国に働き掛けています。

無償化では新制度移行園と私学助成園との事務負担量の違い、私学助成の園にとっては収入が増えるわけではないのに事務負担だけが増えるという形になっています。毎月提出する書類があり、県連合会としても神奈川県に対して事務負担にかかわる人件費や機器の導入に対しての助成を要望しました。市町村からの助成も各協会を中心働きかけていただきたいと思いますが、県立局も財政難なところですが、これからも強く要望していきたいと思えます。全日私幼連には各市町村での書類を統一してもらえるように国に働き掛けています。

## 神奈川県福祉子どもみらい局より 就任にあたって

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部長 太田 康



公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会の皆様方、各幼稚園の先生方には、日頃から、本県の私学行政、また、子ども・子育て支援新制度の推進に対して、多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本年6月に子どもみらい部長に就任し、私学行政に携わることになりました。県内では、公立幼稚園は大変少なく、全体の9割以上が私立の幼稚園となっております。皆様方の私立幼稚園は本県の幼児教育の推進に大変重要な役割を担っているものと認識しております。こうした重要性に鑑み、県は経常費補助をはじめとして、預かり保育推進費補助、地域開放推進費補助、特別支援教育費補助といったさまざまな補助の充実に努めてきました。

また、本年10月から「幼児教育・保育の無償化」がスタートしますので、県でも予算を計上し、子育て世帯を支援してまいります。今後とも、これからの神奈川の子どもの未来のために、すべての子どもたちが、それぞれの個性や能力を伸ばして健やかに成長できる社会を目指して、お手伝いをさせていただきたいと考えています。皆様方におかれましても、子どもたちの成長のために、一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。就任の挨拶とさせていただきます。

神奈川県福祉子どもみらい局私学振興課長

松尾 聖司



公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会の皆様方、各幼稚園の先生方におかれましては、日頃から本県の幼稚園教育の推進に格別なご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。私立幼稚園の振興に微力ですが力を尽くす所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、本年10月から「幼児教育・保育の無償化」がスタートします。この施策により、幼稚園を利用する3歳から5歳の全ての子どもたちについて、利用料が無償化されることとなります。今年度も非常に厳しい財政状況ではありますが、県では、この無償化に必要な予算

として29億4千余万円を計上しました。また、幼稚園教育の一層の推進を図るため、私立幼稚園への経常費補助金として、園児1人当たりの単価を、特別補助をあわせて6,497円増額し、総額121億6千余万円を計上しています。これからも、神奈川の未来を担う子どもたちが健やかに育つ社会の実現に向け、私立幼稚園への支援に努めていきたいと考えております。私立幼稚園の皆様方におかれましても、神奈川の子どもたちが笑いにあふれ、健やかに成長していくための一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 令和元年度事業予定表

黒字→県連合会行事 赤字→全日私幼連 緑字→県等行事 (予定表は8月27日現在確定のものを掲載)

### 4月 April

- 10日(水) 広報室会
- 12日(金) 正・副会長会  
協会会長  
運営委員会
- 16日(火) 新制度担当特別委員会
- 23日(火) 関東地区会・神奈川地区会 団体長会・監査会・理事会  
研修事業部・研究部会  
経営管理部会
- 26日(金) 全日私幼連 常任理事会

### 5月 May

- 8日(水) 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会
- 10日(金) 正・副会長、部・室・次長会、協会会長  
運営委員会  
理事会
- 13日(月) 若手後継者のための保育勉強会
- 16日(木) 新制度特別委員会
- 20日(月) 新規採用教員研修会
- 21日(火) 研究特別委員会A部会
- 22日(水) 中堅教諭対象講習会(横浜美術館子どものアトリエ)  
全日私幼連 定時総会

- 23日(木) 経営管理部会
- 24日(金) 子ども・子育て支援推進協議会(県中小企業共済会館)
- 27日(月) 研修事業部・研究部会
- 28日(火) 正・副会長会  
定時総会
- 30日(木) 研究特別委員会B部会

### 6月 June

- 4日(火) 新規採用教員研修会
- 5日(水) 総務部会
- 7日(金) 資質向上セミナー
- 8日(土) 免許状更新講習(大和渋谷中学)
- 11日(火) 正副会長会  
運営委員会
- 12日(水) 広報室会
- 13日(木) 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 委員総会
- 15日(土) 免許状更新講習(大和渋谷中学)
- 18日(火) 経営管理部会
- 22日(土) 免許状更新講習(大和渋谷中学)
- 25日(火) 若手後継者のための保育勉強会
- 26日(水) 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会  
中堅教諭対象講習会(横浜美術館子どものアトリエ)
- 27日(木) 研究特別委員会B部会  
教育課程等研究協議会運営委員会
- 29日(土) 研究特別委員会A部会(森が丘幼稚園)

### 7月 July

- 2日(火) 新規採用教員研修会
- 8日(月) 研修事業部・研究部会
- 10日(水) 正・副会長、部・室・次長会  
運営委員会
- 11日(木) 全日私幼連PTA連合会 委員総会
- 18日(木) 研究特別委員会B部会
- 22日(月)・23日(火) 教育課程等研究協議会
- 25日(木) 102条園PJ委員会
- 29日(月)~31日(水) キャリアアップ研修

### 8月 August

- 1日(木)・2日(金) 免許状更新講習(鶴見大学)
- 7日(水)・8日(木) 新規採用教員研修会(鶴見大学)
- 19日(月)・20日(火) 幼児教育実践学会(静岡市)
- 21日(水) 関東地区会・神奈川地区会 団体長会・理事会・運営委員会(甲府市)
- 21日(水)・22日(木) 関東地区教員研修山梨大会(甲府市)
- 23日(金) キャリアアップ研修
- 27日(火) 広報室会

### 9月 September

- 2日(月) 中堅教諭対象講習会
- 3日(火) 父母連 常任委員会
- 4日(水) 研修事業部・研究部会
- 6日(金) 研究特別委員会B部会
- 7日(土) 免許状更新講習(大和渋谷中学)
- 9日(月) 正・副会長会/協会会長会/運営委員会
- 9日(月)・10日(火) 若手後継者のための保育勉強会(広島かえて幼稚園)
- 12日(木) 乳児保育セミナー
- 14日(土) 免許状更新講習(大和渋谷中学)
- 17日(火) 研究特別委員会A部会
- 18日(水) 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会
- 19日(木) 経営管理部会

### 10月 October

- 8日(火) 正・副会長、部・室・次長会/運営委員会
- 16日(水) 新規採用教員研修会(茅ヶ崎総合体育館)
- 17日(木) 経営管理部会
- 23日(水) 研修事業部・研究部会
- 24日(木) 乳児保育セミナー
- 25日(金) 研究特別委員会A部会(聖母幼稚園)
- 26日(土)・27日(日) 免許状更新講習(湘南地区・小田原短大)
- 28日(月)・29日(火) 設置者・園長研修大会(和歌山)
- 29日(火) 研究特別委員会B部会

### 11月 November

- 2日(土) 免許状更新講習(湘南地区・小田原短大)
- 5日(火) 中堅教諭対象講習会
- 7日(木)・8日(金) 関東地区代表者協議会(栃木・宇都宮市)
- 12日(火) 研究特別委員会B部会
- 13日(水) 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会
- 14日(木) 経営管理部会  
乳児保育セミナー
- 18日(月) 正・副会長会/運営委員会
- 19日(火) 若手後継者のための保育勉強会  
父母連 研修大会(県立音楽堂)
- 26日(火) 研究特別委員会A部会

### 12月 December

- 2日(月) 研修事業・研究部会
- 3日(木) 父母連 常任委員会  
中堅教諭対象講習会
- 9日(水) 正・副会長会/運営委員会
- 10日(木) 全日私幼連PTA連合会 全国大会
- 11日(金) 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会
- 16日(月) 研究特別委員会A部会
- 19日(木) 経営管理部会

### 1月 January

- 16日(木) 私学新春のつどい  
経営管理部会
- 21日(火) 研究特別委員会A部会/研究特別委員会B部会
- 22日(水) 正・副会長、部・室・次長会/運営委員会
- 26日(日)・27日(月) 幼稚園教育経営研修会(箱根・天成園)
- 27日(月) 研修事業部・研究部会

### 2月 February

- 5日(水) 予算会議
- 13日(木) 経営管理部会
- 17日(月) 研究特別委員会A部会
- 18日(火) 若手後継者のための保育勉強会  
父母連 常任委員会
- 20日(木) 正・副会長、部・室・次長会/協会会長会/運営委員会  
研究特別委員会B部会

### 3月 March

- 4日(水) 研修事業部・研究部会
- 10日(火) 正・副会長会/運営委員会/理事会
- 19日(木) 経営管理部会

寄稿

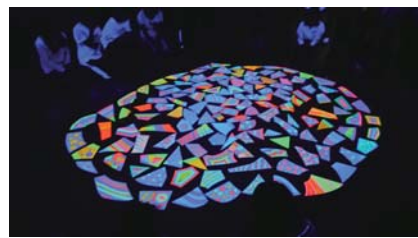
幼児期の造形活動について

横浜美術館教育普及グループ 主席エデュケーター 山崎 優

今年度は絵の具、クレヨンなどの描画素材や、土粘土という感触の良い粘土に触れながら、横浜美術館「子どものアトリエ」の理論と実践を研修しました。描いたり、つくったりという「造形活動」は幼稚園教育要領の『五領域』では「表現」という分野になります。教科の中には「答えがひとつ」という学問もあれば、「答えはそれぞれ、人の数だけ」というものもありますが、「表現」はまさに後者の代表です。つまり表現とは、自分がこうしたいと思っただけの自由なもので、それをすればよいだけのことなのではなく、「思う」ことの中には、「誰が思っているの？」という主体性の有無や、「何を、どのように？」という具体的な手法・段取りに思いめぐらすことも含まれます。つまり表現は「思っただけでOK！」ではないのです。誰



かがやってくれるわけでもありません。幼稚園では年少から年長の3年間をかけて、そのことを教えますが、いろいろなことを、なるべく自分の力でできるよう導き、支援していく中で「なかなか自分のこととして受けとめてくれない」という年中さんや年長さんを身近に感じている先生も多いのではないのでしょうか。「これ、誰がするの？」と聞いてみると3歳くらいから「じぶん！」と答えられますが、皆が皆その意味を理解しているわけでもないようです。「自分でやる」というのは決心のいることです。すんなりできる子もいれば、なかなか決心がつかない子、むしろ、つけたくない子もいます。彼らをどのように導くかが課題です。教育の第一歩として、教師は決心の瞬間を待つしか



ありませんが、そのためには、「自分も加わりたい！」と思えるような空気を作るための活動を考えなければなりません。また、「自分ですると楽しい」ということがわかるための活動」というものも用意できなければなりません。造形活動は「必ず作品をつくらなければならない」という縛りの中で考えなくてもよいのです。



幼児期の造形活動は、「表現」の核となる、「自分」という意識の獲得と、「自分でやる」ことの楽しさを体験することが基本と考えます。性急に表現や作品の完成度を求めるのではなく、その子の自信につながる成功体験をたくさん授けましょう。それが、答えが一つではない「表現」活動の土台となります。



寄稿

それでも前に進む姿勢を育てるために

特定非営利活動法人 発達支援機関リソースセンターonline 代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝

幼児期はクラスの半分程度は気になる子です。集団を乱す子が多いクラスの先生方は日々消耗されているのではないのでしょうか。適切な言動ができる力のある子は、わざわざ叱られるような割に合わないことはしません。不適切な言動をする子も、人を叩いてはいけない、勝手に教室から出てはいけないということを知っています。それでも不適切な言動を繰り返すのは、うまくやりたくてもできない「事情」があるからです。



「わがまま」「自信がない」「言葉で表すことができない」「経験不足」などとすると、これまでの成果の出ない対応の繰り返しとなります。励ましや褒美では長続きせず、言い聞かせや注意、叱責では心の問題である二

次障害まで引き起こします。うまくいかない「事情」つまり要因を脳機能の視点で考え、理にかなった支援で不適切な言動の定着を防ぐことが重要な支援です。支援者が彼らの言動の理由を理解し、不適切な言動をしない設定をして動じずに対応することが彼らの安心につながります。

とができるのです。特性上、不適切な言動は集団の中で現れます。園は療育とは違い、他児や先生方とのかかわりで育つ場です。共に育つ場である園で、彼らが見えられ、怖がられる、蔑まれることのないように、できる限り水面下で目立たずに支援をしなければなりません。



私は10数年前から園・学校への巡回を始め、園・学校一貫でかわった自治体の子は、小学4年生までにほぼ100%特別支援から外れました。ここでは、毎年5・6

が私の役割で、卒園までのスパンで指導計画を引き継ぐ「線のシステム」をつくりました。困ったときに先生方の困りごとへのアドバイスをする、一般的な「点のシステム」では成果はできません。指導計画のもと、先生方の無駄のない水面下での支援は本当に見事です。そして、入学後、他児がA君へのかかわりを担任の先生に教えます。特別支援ではなく自然なかかわりとして。このような園や先生に出会える幸せな子どもを増やすため、色々なところでお話し、園や学校にお伺いする毎日です。

資質向上セミナー

6月7日 講師 實来 生志子 先生(横浜市立池上小学校校長)

スタートカリキュラムと幼小連携

文責/研究部長 佐伯 妙有

このセミナーでは、まず横浜市ゆうゆうの森幼稚園・港北幼稚園の渡邊英則先生から、幼児教育の主体的・対話的で深い学びや幼児期に育てなければならない非認知能力の大切さなどを話していただきました。それを受けて小学校ではどのようなスタートカリキュラムが行われているかを、横浜市池上小学校校長の實来生志子先生より話していただきました。



先生からは、今までのスタートとして小学校教育を考えた際のスタートカリキュラムによって、幼児の学びや育ちを理解した上で、それらの姿を生かす環境を考え始めたことなどが話されました。

た。具体的には、あそびタイム、なかよしタイム(カーペットタイム)、わくわくタイム、ぐんぐんタイムと4つの時間を考えて、子どもたちの生活リズムや思考の流れに合った弾力的な時間割が設定されています。その環境はクラスの真ん中にカーペットが敷いてあり、周りにはいくつものコーナーができていて、子どもたちは自分で遊びに熱中したり、友だちとの空間を共有したり、生き生きとした表情で過ごしています。そして小学校の規則を子どもたちに押しつけるのではなく、園ではどうだった?どうしたらいいの?と自分で考え、学級は子どもと一緒に作っていく。「いいハテナだね。伝え合おう」と疑問を共有するなど、幼児期の領域から小学校の教科の教育へ移行するに当たって幼児期の育ちを考えた小学校の取り組みを聞くことができました。

研究特別委員会 A部会 (全8回)

第1回 5月21日/第2回 6月29日 講師 佐藤 康富 先生(鎌倉女子大学短期大学部教授)

A部会で積み上げてきた対話

文責/研究部員 櫻井 喜宣

『自分の保育をより良くするために語り合おう』公開保育を通して」というテーマで始まりました研究特別A部会。今年度、まだ2回しか重ねておりませんが、これまで長年積み重ねてきた『A部会の文化』というものを感えています。その一つが『対話』です。研究会では他園の先生方と心を開き、公開保育(ECEQ)では園を開き、子どもを真ん中に、保育の質を向上していきたいという志と、保育に対する情熱をぶつけ合い、語り合うこと。自身の持つ意見とは違ったとしても、決して否定をすることはなく、共感と疑問を大切に、ファシリテートし合いながら対話を重ね、一つの文化として参加する先生たちが作り上げていると感じています。そのA部会の力が存分に発揮されるのは、やはり公開保育ではないかと思えます。



6月29日に開催されました森が丘幼稚園(横浜市)のECEQでは、40名を超えるA部会の部員さんからの申し込みにあり、一部の方にはご希望に添えなかったことありましたが、森が丘幼稚園の安藤園長先生をはじめとする諸先生方の「保育をもっとより良くしたい!」という思い、A部会の先生方の「学びたい!」という思いが相まって、とても良い時間を持つことができました。改めて感謝申し上げます。第3回のA部会は、諸事情により12月に振り替えをさせていただきます。また10月には聖母幼稚園(横浜市)でECEQを開催予定です。

# 第10回幼児教育実践学会

日時：2019年8月20日(火) 場所：常葉大学静岡草薙キャンパス

8月19日・20日に静岡県で幼児教育実践学会が開催され、神奈川県として2日目にB部会が口頭発表、8園がポスター発表を行いました。

## 口頭発表

テーマ：子どもの姿から「主体的・対話的で深い学び」を読み解く

発表者：古郡 亜希夫(綾西幼稚園副園長)

島雄 晴菜(鎌倉女子大学幼稚部教諭)

共同研究者：久保健 太(関東学院大学専任講師)

昨年度から研究してきた「主体的・対話的で深い学び」を読み解くための実践方法を動画と講師の助言により紹介し、鎌倉女子大学幼稚部の事例を元に、80名程の参加者と子ども理解を深めていきました。「学びの深さには3つのレベルがある」「学びには5つの段階がある」それを踏まえたうえで「やりたいけど、やらない。できないから、やらない子ども」をどう支援するかを議論しました。B部会の特徴でもある「正解はないので自由に読み取りましょう」



という形式が参加者には取り組みやすかったようで、グループ討議では積極的に意見交換がなされました。参加者が読み取った子どもの姿から、久保先生が発達の理論を用いて「やらない理由(不信・恥・罪の意識)に応じた保育を行う、自己決定を励ます」など助言・アドバイスをくださいました。一つの事例に対して参加者全員で読み解くということは、研究成果を聞くだけでは得られない幼児理解があったのではと感じています。また、発表が終わっても久保先生に直接質問に来る参加者も見られ、参加者の関心が高い発表ができたのではないかと思います。今年度のB部会は3回が終了していますが、残りの研究会でも引き続き子ども理解を深めていきたいと思ひます。

(文責/研究部員 吉野 孝洋)



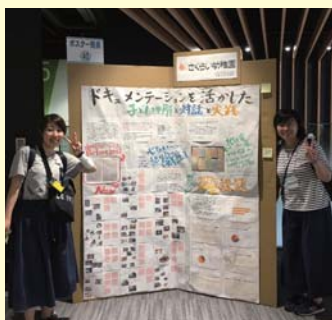
## ポスター発表

### かぐのみ幼稚園



子どもを真ん中に、みんな  
でアート&サイエンス  
～海洋プラごみを保護者・保育  
者・地域のみんなで学び合う～

### さくurai幼稚園



ドキュメンテーションを  
活かした子ども理解と対  
話と実践

### 太陽第一幼稚園



「園舎の雨水デザイン」  
～室内環境に雨を取り入れたこ  
とで生まれる新たな可能性～

### 太陽第二幼稚園



子どもの意欲を高める「ネ  
コクラブ」の実践について

### 幼稚園型認定こども園宮前幼稚園 幼保連携型認定こども園宮前おひさまこども園



午後の保育の質向上に向けて  
～認定こども園へ移行しての  
課題と可能性～

### 西鎌倉幼稚園



『生いたちの記(ポートフォリオ)』と『園  
内研修』の相互作用で保育が深まる  
～こどもの遊びや活動への変化  
と保育者の遊びのとらえ方～

### 認定こども園かもいようちえん



いまさらながらの  
ダンゴムシ

### 関東学院六浦こども園



子どもが育つ外環境

**新規採用教員研修会(全5回)**  
第1回 5月20日 「保育者の役割 新人に求められるもの」保育者としてのスタート子どもたちのために  
講師 塩 美佐枝 先生(聖徳大学大学院教授)  
文責/研修事業部長 田中 伸宜



令和元年度より、研究部から研修事業部の事業となった新規採用教員研修会。すべての事業を見直した結果、研修事業部はこの新規採用教員研修会、中堅教諭対象講習会、特別支援教育研修会(10年研)、免許状更新講習と、名前の如く研修事業を担当することになりました。

さて、5月から10月まで全5回で開催する新規採用教員研修会の初回の受講者からの声を紹介したいと思います。

『実際に現場に出て、自分の中で考えたこと、感じたこと、困ったことなど照らし合わせたときに「なるほど」と納得することがとても多かったお話がたくさんでした。勤務して1か月と少しが経ち、自分自身のことについていになくなってしまい、子ども主体になっ  
ていなかったのではないかと思つてしまつたところがあるので、今回のお話を頭に置き子どもたちを第一に考えた保育ができるよう心掛けていきたいと思ひました。』

(中央林間幼H先生)

『自分だけが出来ない、辛いではなく、この時期の新人さんは皆同じ気持ちと知れて、また明日から頑張ろうと思つた。自分が子どもの立場で考えた時、どんな先生のクラスに入りたいか、考え直すことが出来た。全て教える、伝えるのではなく、子どもの行動、思考を見守ったり、助言することで、視野が広がり知識が増えると思ひが  
付いた。』

(辻堂二葉幼S先生)

他にも紹介したい感想がたくさん寄せられています。紙面の関係で二つほど紹介させていただきます。いずれも学校で学んだ保育を現場で実践する際のギャップや、新人であるが故の苦労が現れている文面だと思ひました。より多くの学びをして欲しいと思ひます。



**第34回関東地区教員研修山梨大会**  
8月21日(土) 22日 神奈川県 フォーラム7  
外部ゲスト 佐藤 康富 先生(鎌倉女子大学短期大学部教授)  
内部ゲスト 水越 美果 先生(横浜単人幼稚園園長)  
コーディネーター 古木 大悟 先生(相模林間幼稚園園長)  
問題提起者 大南 友里恵 先生(相模ひまわり幼稚園教諭)  
佐藤 友佳 先生(宮前おひさまこども園教諭)

## 主体的・対話的で深い学び

文責/研修事業部員 古木 大悟

神奈川県としてフォーラム7の『主体的・対話的で深い学び』を右のメンバーで担当させていただきました。  
大南先生は、砂場での子どもたちの遊びの事例を発表してくださいました。実際の保育場面を動画で説明し、子どもたちが環境を通して主体的に遊び、遊びが広がっていく様子や、子ども同士の対話が生まれていく様子、それがどんな学びにつながっているのかを紹介しました。一方、対話的という見地からは、保育者が声をかけすぎしてしまう場面などもあり、参加者一同保育を振り返るきっかけになりました。  
佐藤先生の発表は、年中から年長にかけてのファッションショーの事例でした。年

中の時には活動には入れなかった子どもが、自分の興味や関心をきっかけにして、年長になって世界を広げ、友だちと様々な関わりが生まれた活動を説明してくださいました。また、保育者が子どもの話をじっくり聴き、一人ひとりの多様な『おもしろそう』から子どもたちがファッションショーを作っていく様子は大変説得力のある内容でした。午後のグループ討議では、じゃんけん自己紹介などで、参加者の気持ちをほぐした後、午前中の発表を受け、『子どもの思いをどう捉えるのか?工夫やアイデア・実践・失敗例』と『対話が生まれる工夫(職員同士・子ども同士等)』というテーマで各県の先生と話し合いを持ちました。

まとめに、水越先生と佐藤先生からは園での帰りの会などのちょっとした場面でも『本当に主体的か、対話するために子どもたちの話を聴いているか』ということを職員間で話し合ったり、『毎年これだからこれでいいや』ではなく、保育について葛藤したりチャレンジしたりすることが必要であるという  
言葉が印象的でした。

# 令和2年度予算要望について—『幼児教育・保育の無償化』の動向と課題—

日頃より幼稚園並びに認定こども園の諸先生方には、振興部に対するご支援ご協力に感謝申し上げます。平成29年12月に、政府は『新しい経済政策パッケージ』を閣議決定し、①保護者負担の大幅な軽減により豊かな家庭環境づくり、②少子化対策、③幼児教育の更なる質の向上など国家戦略として幼児教育の重要性が改めて位置付けられ、いよいよ令和元年10月1日より「幼児教育・保育の無償化」が実施されます。

この無償化により女性の社会進出がさらに加速し、待機児童の増加に伴い保育園の増設が進み、幼稚園就園率が低下し廃園を余儀なくされる状況も考えられます。また今回の無償化の施策に当たっては「預かり保育」や「給食費」など地域格差が生じたり、預かり保育を利用する子どもの増加によりさらに人材確保が困難な状況を招くのではないかと危惧されています。あくまでも子どもの幸せな育ちを願い、その最善の利益を目的とした制度設計と運用が図られるべきであり、

振興部長 石井 和則



様々な子ども・保護者のニーズに対して公平性・透明性のある制度となるよう要望致します。

さて、今年も県連合会小澤会長をはじめ退職基金財団大澤理事長、そして関係諸役の先生方同行のもと6月25日自民党、7月18日県政会、26日立憲民主党・民権クラブ、

29日公明党、31日かながわ県民・民主フォーラム、そして8月26日に福祉子どもみらい局へとそれぞれ予算要望書を提出しました。

要望内容は下記の通り。経常費補助金（一般補助）については、今年度も園児一人当たり単価前年度対比6,582円の増額となりますが、教育の質の向上、人材確保や教職員の処遇改善にとって重要な補助金としてさらに国の基準単価に近づけるよう強く要望しました。そのほか多岐にわたる要望をさせていただきますが、今後多様な問題点に対し国・県そして行政に積極的かつ迅速に働きかけていきます。

## 令和2年度の神奈川県予算に対する要望内容

### 1 経常費補助金(一般補助)の充実

- ◇園児一人当たりの補助額は国の基準単価を約1万5千円下回っている。私学助成を受ける幼稚園にとって教育の質の向上、安定的な人材確保、教職員の処遇改善につながるものであり、国の基準単価に近づける更なる増額。
- ◇新制度移行園に合わせ、在職年数7年(現在は9年)以上の教員への加算
- ◇第1種・専修教諭免許有資格者への加算と、退職後に再就職した教員の職歴を通算年数として認める加算要件の拡充。
- ◇学校法人立以外の園に対する運営費補助金。

### 2 経常費補助金(特別補助)の充実

- ①特別支援教育費補助
  - ◇対象児1名から784,000円の補助。
  - ◇重度のアレルギー疾患のある園児に対する加算。
  - ◇補助金の支給基準日を5月1日に限定せず、満3歳児の年度途中での受け入れにも対応できる基準日の増設。
- ②預かり保育推進費
  - ◇待機児童対策に大きな役割を果たしている。市町村間での無償化の利用要件による格差が生じないようにするとともに、補助金の増額。
  - ◇預かり保育を利用する「特別支援を必要とする子ども」や「アレルギーへのケアを必要とする子ども」への加算。

### ③地域開放推進費

- ◇地域社会のコミュニティにおける子育て拠点となっている幼稚園への地域開放推進費の充実。
- ◇学校法人立以外の園にも補助制度の創設。

### 3 私学助成園に勤務する教職員への処遇改善

- ◇新制度移行園との格差を減らし、また小規模園でも実施できる処遇改善制度の設計。

### 4 緊急環境整備費補助金及び教職員業務のICT化の充実

- ◇緊急環境整備費補助金については、学校法人立幼稚園への補助率(現在は3分の1)を認定こども園と同様の2分の1への増額。申請時期と減額措置の改善。また、園舎建物に付随するものの修繕にも利用できる補助への拡充・見直し。
- ◇「働き方改革」が求められている。教員の業務負担の軽減・効率化するためのICTシステムの導入にも利用できるよう拡充。

### 5 人材確保への支援、幼児教育の質の向上

- ◇県内各地域のニーズに対応して既卒者と新卒者を対象とした就職セミナーを実施できる人材確保支援策の継続。
- ◇教員免許状の上進を希望する教職員が単位取得できるように、文部科学省の補助金を活用し、県教育委員会が主体となった実施。
- ◇保育士等修学資金貸付制度は預かり保育を実施する幼稚園への就職者にも適用されることを、県や市町村の案内資料への明記。
- ◇幼児教育の質の向上と優秀な教員の確保のために大学等との連携を図るインターシップ生受け入れへの助成。

### 6 子ども・子育て新制度への支援

- ①公定価格の維持や増額への支援
  - ◇国の子ども子育て会議で公定価格の見直しが議論されている。新制度への移行促進にも欠かせない公定価格の維持・充実について、地方の声を国に届ける努力を。
  - ②認定こども園の2号、3号こどもの利用調整
    - ◇利用調整に園長の裁量を反映できるよう、事前に市町村と相談協議できる場の創設。また、公定価格の設定では、単価の引き下げとなる2号と3号の合算によらず、別々の設定へとするよう働きかけを。
  - ③市町村の取り組みへの支援
    - ◇新制度への給付加算や教職員の処遇改善等に市町村の財政力により格差が生じないように県による財政支援。

## 研修会報告

5月8日(水)  
特別支援教育研修会 兼 10年経験者研修会 かながわようちえん会館 99名  
「気になる子への理解と支援」  
特定非営利活動法人 発達支援機関リソースセンターone 代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生

5月13日(月)  
若手後継者のための保育勉強会 かながわようちえん会館 27名  
「動きやすい園の環境と園内研修の方向性」  
講師・コーディネーター 玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生

5月20日(月)  
新規採用教員研修会 かながわようちえん会館 145名  
「保育者の役割-新人に求められるもの-」保育者としてのスタート 子どもたちのために  
聖徳大学大学院 教授 塩 美佐枝 先生

5月22日(水)  
中堅教諭対象講習会子どものアトリエ 横浜美術館 60名  
「描画の活動を中心に」  
横浜美術館教育普及グループ 主席エディケーター 山崎 優 先生

6月4日(火)  
新規採用教員研修会 茅ヶ崎市総合体育館 114名  
「体験しようアドベンチャー教育 第1回」  
玉川大学TAPセンター 白山 明秀 先生

6月7日(金)  
資質向上セミナー かながわようちえん会館 85名  
「スタートカリキュラムと幼小連携」  
横浜市立 池上小学校 校長 寶來 生志子 先生  
ゆうゆうの森幼稚園・港北幼稚園 理事長・園長 渡辺 英則 先生

6月25日(火)  
若手後継者のための保育勉強会 かながわようちえん会館 31名  
「地域・保護者・行政とのつながりと保育の質の向上/地域力の向上」  
講師 学校法人柿沼学園 認定こども園こどもむら 理事長・学園長 柿沼 平太郎 先生  
コーディネーター 玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生

6月26日(水)  
特別支援教育研修会 兼 10年経験者研修会 かながわようちえん会館 82名  
「集団適応が難しい子の不適切な言動の根本の“事情”を理解して伸ばす」  
特定非営利活動法人 発達支援機関リソースセンターone 代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生

6月26日(水)  
中堅教諭対象講習会子どものアトリエ 横浜美術館 62名  
「粘土の活動を中心に」  
横浜美術館教育普及グループ 主席エディケーター 山崎 優 先生

7月2日(火)  
新規採用教員研修会 かながわようちえん会館 123名  
「子ども理解と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」  
鎌倉女子大学短期大学部 教授 佐藤 康富 先生

キャリアアップ研修 かながわようちえん会館 119名  
7月29日(月) リーダーシップ  
相模女子大学 教授 認定こども園相模女子大学幼稚園 園長 齋藤 正典 先生

7月30日(火) 危機管理、事故防止  
子ども安全計画研究所 代表理事 東京都大学客員 教授 猪熊 弘子 先生  
7月31日(水) チームマネジメント・コミュニケーション  
㈱クロスライフパートナーズ 代表取締役 雑賀 竜一 氏

教員免許状更新講習 鶴見大学 62名  
「教育の最新事情」  
8月1日(木) 鶴見大学短期大学部 教授 山室 吉孝 先生  
8月2日(金) 鶴見大学短期大学部 教授 橋本 弘道 先生

8月7日(水)  
新規採用教員研修会 鶴見大学  
「多様性に対応するために必要な事」 117名  
玉川大学 教授・四季の森幼稚園 園長 若月 芳浩 先生

音楽「保育者としての表現力・創造力・声、身体、簡易リズム打楽器を使って～」 36名  
小田原短期大学准教授 望月 たけ美 先生  
絵本「子どもに寄り添う保育実践-言語表現教材を使って遊ぶ-」 46名  
鶴見大学短期大学部教授 松本 和美 先生

自然「身近な植物を使った伝統的な遊び」 38名  
東京家政大学特任教授 佐藤 英文 先生  
運動遊び「体を使った運動遊び」 53名  
小田原短期大学助教 中山 貴太 先生

8月8日(木)  
新規採用教員研修会 鶴見大学 177名  
「子どもへの眼差し・保育に向かう姿勢を振り返る-2019-夏」  
鎌倉女子大学短期大学部 学部長・教授 小泉 裕子 先生

「全感性を駆使して子どもと付きあうために」  
十文字学園女子大学 名誉教授 平田 智久 先生  
8月23日(金)  
キャリアアップ研修 かながわようちえん会館 70名  
チームマネジメント・コミュニケーション  
㈱クロスライフパートナーズ 代表取締役 雑賀 竜一 氏

就職フェア・相談会

パンフレット他で  
新規・既卒者に周知  
採用に向けてご協力を

文責/経営管理部長 浅谷 学

今夏も各地区協会による就職フェア・就職相談会が開催されました。今後の園見学や採用に関する県連からの大切なお願いがありますので、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

### 参加促進と意識高揚

県連ではフェア・相談会の開催に先立って各協会を網羅したパンフレット、リーフレット、ポスターを作成し、養成校や希望者に送付して周知と参加促進に努めました。そして今年度も県の幼稚園教員復帰等支援事業を受託できたため、幼稚園教諭を目指す既卒者・新卒者向けの広報として、新たに政令市(横浜市・川崎市・相模原市)を除く県内全域のタウン紙を活用しました。現在は幼稚園教諭になった後の社会的な身分保障やフットローアップ体制等を解説したパンフレットをフェア・相談会への参加者に配付し、就労意識の高揚を図っています。

### 各協会に採用者数をお知らせください

今後は園見学や採用といった段階に入ります。今回の事業ではフェア・相談会への参加者からの採用者数を県に報告する必要があります。政令市以外に所在する園の園長先生におかれましては、園務ご多忙の折、誠に恐縮ですが、各協会の経営管理担当者まで採用者数をご連絡いただきましたたくお願い申し上げます。

### 幼稚園ナビの活用を

県連では幼稚園教諭免許取得(予定)者や潜在的保育士の方々に幼稚園ナビへの登録をお願いしています。採用活動を進めるにあたっては「幼稚園ナビ」の活用をお願い申し上げます。

### 幼稚園の先生を目指してもらう

中学生の職業体験を受け入れている園も少なくないと思います。保育体験と前後の学習が幼稚園教諭を目指すきっかけとなるよう、幼稚園の先生になるための方法や仕事内容等をわかりやすく紹介したリーフレットを作成しました。地域の中学校への配付をお願い申し上げます。



# 令和元年度 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 委員会総会開催報告

令和元年度 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 委員会総会



神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が6月13日(日)にようちえん会館会議室において、60名を超える参加者を得て開催されました。

総会は、ジリリさおり父母連副会長の挨拶で開会し、神奈川県私立幼稚園連合会小澤俊通会長、齋藤希絵父母連会長の挨拶、平成30年度父母連役員紹介後、石井和則振興部長が議長に就任されました。

議事では、平成30年度の事業報告と収支決算報告・監査報告が承認され、続いて令和元年11月19日に神奈川県立音楽堂で開催される父母連研修大会の実施等を盛り込んだ、令和



会長就任のご挨拶

## いましかないこの時間を大切に

父母の会会長 スキーツ由佳

各園の園長先生をはじめ教職員の皆様、関係者の方々には、日頃より、より良い幼児教育のために力を尽くしていただき、心より感謝申し上げます。

本年度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の会長を務めさせていただきます、スキーツ由佳と申します。

6月に行われた委員会総会において、各地区を代表する父母の会連合会の常任委員から役員9名が決まり、これまで先輩方が築き上げてこられた父母の会を引き継いでいただく

元年度事業計画案と収支予算案が全会一致で承認されました。

次に令和元年度父母連役員の見出しが行われました。委員会において選出された常任委員並びに監事によって行われた常任委員会において、スキーツ由佳さんが会長に選出され、就任のご挨拶と抱負を語りました。副会長は長山佐希子さんと加々美京子さんに決定しました。

最後に、小澤俊通会長より父母連会長としてご尽力いただいた齋藤会長を始め、平成30年度常任委員の方々に感謝状と記念品が贈答され、藤田聡副会長の挨拶で閉会となりました。

(文責/振興部長 仁藤一成)

ことになりました。初対面とは思えないほど、子どもや地域のなごやかな話をしながら賑やかに会合を終え、「子どもを持つ」という共通項がどれほど大きな力になり得るかを再認識しました。先生方や事務局からのご指導・ご協力を仰ぎながら、皆様のお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

この10月から始まる幼児教育・保育の無償化。ありがたく制度の恩恵を受ける一方で、私たちは、子どもの心の安定の基盤が家庭で

育まれることを忘れず、いまだからこそ子どもたちが遭遇する喜びやつまづきを受け止めたり、励ましたりしながら、ともに成長していければと思います。

父母の会連合会では、子どもたちの育ちと父母自身の幼児教育に対する意識の向上の一助にさせていただけるよう、研修大会等を開催しております。公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会は、加盟園数583園、総園児数は約10万4千人を超える、東京都について全国2番目の規模であることから、より多くの皆様に積極的にご参加・ご意見をいただければ幸いです。子どもたちとともに、笑顔いっぱい健やかな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

## 処遇改善Ⅱの中核・専門リーダー等は必修科目となったマネージメント研修!



昨年度に引き続き新制度担当特別委員会では、7月29日・30日・31日の3日間にわたりキャリアアップ「マネージメント研修」1日5時間を実施致しました。また、昨年度のマネージメント研修は2日間で10時間行われましたが、今年度より15時間必修とされたため、8月23日に7月31日と同様のテーマで5時間の追加研修が行われました。

平成30年度までに新制度に移行し、処遇改善Ⅱの手当を受けている中核・専門リーダー及び副主幹保育教諭の職員を受講対象とし、加盟園の職員は幼稚園ナビを通して申し込み、非加盟園職員は県次世代育成課からの案内により同幼稚園ナビでの申し込みと致しました。

3日間とも定員120名を満了す受講者となり、初日となる29日は、認定こども園相模女子大学幼稚園園長・齋藤正典先生による「教育・保育施設におけるリ

ダーシップ」(俯瞰図B6)サブテーマ「後輩職員へのよき助言者となるための」のテーマで、「よい人間関係の築き方」園内研修のプロセス」までのグループ討議を含め充実した研修が行われました。

2日目は、子ども安全計画研究所代表理事の猪熊弘子氏による「危機管理と事故防止」(俯瞰図A3)の内容で事故事例をもとに事故防止策等グループ討議を行い、きめ細かな研修となりました。

3日目は(株)クロスライフパートナーズ代表取締役・雑賀竜一氏による「チームマネージメント・コミュニケーション」(俯瞰図D1)の内容で、仕事力UP・チーム力UP・コミュニケーション力UPの3テーマでグループ討議が行われ、スキル向上につながる研修となりました。

猛暑の中、計4日の研修を無事に終えることが出来ました。事務局員をはじめ特別委員会の皆様お疲れさまでした。

(文責/新制度担当特別委員会 委員長 八木 肇)



©ビッグ錠

**法律相談** **R&G横浜法律事務所**  
 横浜市中区住吉町1-2(スカーフ会館3階)  
**TEL.045-671-9654**  
 県連窓口担当 **西村将樹 弁護士**

**別居中の保護者への対応について**

別居中ではあるものの離婚がまだ成立していない状況で保護者に対応しなければならぬケースもあると思いますが、別居中の両親は子の養育についても激しく対立しているケースが少なくありませんので、幼稚園が夫婦間の紛争に巻き込まれるリスクがあります。

親権の共同行使の原則(民法818条3項)や「保護者」に対する積極的情報提供義務(学校教育法28条・43条)などから考えますと、同居の有無に関わらず双方の親を「保護者」として扱うことが望ましいといえますが、常に双方の親へ対応しなければならないとすると、幼稚園側の負担やリスクは増大してしまいますので、同居親への対応を原則とするということも現実的な選択であると思います。

特に難しいケースは別居親による「子の連れ去り」につながる情報提供の問題であり、子の帰宅時間や行事の詳細なスケジュールの確認を求められた場合には、弁護士に相談してから対応することもご検討ください。

**教育相談** **相談の申し込み**  
 電話・ホームページから事務局へ申し込みください。  
**TEL.045-440-3210**  
**http://www.shinshiyou.com**  
 教育相談員 **鈴木 敦子 先生(臨床発達心理士)**

**未知、未知、未知!**

新聞に載っていた話です。バナナが好物な2歳児にお母さんが皮をむいたバナナを差し出すと、「自分で皮をむきたかった」と言いました。そこで丸ごとのバナナをあげると「お母さんむいて」と差し出したそうです。大人相手ならばどっちなの、と文句を言いたくなります。でもこのお母さんはやりとりが楽しいととらえているようでした。一方で険悪な親子も見かけます。朝、出勤途中のお母さんが4歳くらいの息子を怒鳴りながら歩いていました。「もっと早くしないからいけないでしょう!」とレインコートを着た息子を振り返りながら怒っています。身体が小さい分、子どもの方が気の毒に思われました。さて、私たちは真剣に考える必要があります。子どもが将来不幸にならず、かつ本人の潜在的能力を開花させるにはどのような環境設定と対応方法をとればよいのかを。私たちが生きてきた道を決して今の子ども達にはたどりません。導かれるのはむしろ大人の方かもしれません。

# 祝 Pride of KANAGAWA

## 令和元年度神奈川県県民功労者表彰(教育・文化)

令和元年6月20日に、神奈川県庁本庁舎において令和元年度神奈川県県民功労者表彰の表彰式が行われ、教育・文化の分野で、学校法人めぐみ学園 川崎めぐみ幼稚園 理事長・園長 鈴木健之先生が受賞されました。  
心よりお祝い申し上げます。



学校法人めぐみ学園  
川崎めぐみ幼稚園 理事長・園長  
鈴木 健之 先生

### 解説 県民功労者表彰

公共の福祉に貢献し、その業績が特に優れた方々を広く顕彰することを目的とした県の最高表彰のひとつで、団体や地域の活動などを通じて社会福祉、保健衛生、産業・経済、教育・文化、生活環境など各分野で長年にわたり活躍し、特に優れた業績をあげた方に贈られます。

## ようこそ連合会へ 新規加盟園情報

相和私立幼稚園協会  
**学校法人正栄学園**  
**湘南こども園**  
〒253-0113  
高座郡寒川町大曲1-1-6  
TEL. 0467-84-9229  
FAX. 0467-84-9225  
設置者・代表者名/林 栄  
園長 名/萩野 幹夫  
創立年月日/平成30年4月1日



厚木地区私立幼稚園協会  
**学校法人清和学園**  
**清和幼稚園**  
〒243-0014  
厚木市旭町5-36-25  
TEL. 046-228-1626  
FAX. 046-229-0798  
設置者・代表者名/宮崎 幸次  
園長 名/宮崎 幸次  
創立年月日/昭和30年10月10日



## 令和元年度 神奈川県連合会加盟園数・園児数

協会名	園数	園児数	前年度園児数	前年度比
公益社団法人横浜市幼稚園協会	254	45,401	47,020	-1,619
公益社団法人川崎市幼稚園協会	84	19,560	19,932	-372
横須賀市私立幼稚園協会	30	4,168	4,209	-41
特定非営利活動法人藤沢市私立幼稚園協会	29	5,917	6,041	-124
鎌倉私立幼稚園協会	21	2,819	2,981	-162
茅ヶ崎市私立幼稚園協会	14	2,788	2,923	-135
湘央地区私立幼稚園協会	41	6,470	6,435	35
小田原私立幼稚園協会	12	1,227	1,302	-75
相和私立幼稚園協会	28	4,712	4,695	17
一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会	45	7,996	8,281	-285
逗葉私立幼稚園協会	5	572	584	-12
厚木地区私立幼稚園協会	20	3,034	3,005	29
計	583	104,664	107,408	-2,744

県連設立 1948年(昭和23年)

### 事務局からのお知らせ

### infomation

#### 事務局新メンバー紹介



本年4月よりお世話になっております片野亜由美と申します。皆様のお力になれるよう頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



育てます！未来に花咲く、小さな芽



体育

英会話

園の魅力アップに直結！専門講師の派遣承ります

株式会社 ジャクパ  
本部 TEL 042-345-6111

QRコードよりホームページにアクセスいただけます▼



幼稚園バスの運転管理は  
「株式会社みつばコミュニティ」



幼稚園バスの運行は  
プロにお任せください！  
安心の全国900台の  
運行管理実績！

<https://www.mitsuba-c.jp> info@mitsuba-c.jp

お問合せ ☎ 0120-315-328